

インターバンクの声（2016年6月29日）

28日のニューヨーク市場終盤、ドル/円が102円台後半、ポンド/ドルが1.33ドル台中盤、そしてユーロ/ドルが1.11ドル近くまで戻してきた。ユーロ/ドルは依然として金曜日の英国民投票後に付けた安値からそれほど大きく戻している訳ではないが、ポンド/ドルやドル/円については一旦、売り圧力が弱まったようにも見える。予想外だった英国民投票の欧州連合(EU)からの離脱決定に、いつまでも失望していても仕方なく、通貨の売り持ちポジションを構築した人達もひとまず利益を確定させているようだ。英国のEUからの離脱が明日や明後日に起こるわけではなく、「短期的には投票前と実質的な変化もない」といったことが分かり始め、リスク回避姿勢が緩んでいることも背景にある。ニューヨークの朝方に発表された第1・四半期米GDP確報値や6月の消費者信頼感指数が予想を上回ったことも相場を落ち着かせたが、市場が注目する米経済指標は、何よりも来週末の雇用統計だ。それまでポンド/ドルやドル/円をもう一段売り込むのは手控えたいとする人も多いようだが、バイアスはとにかく売りに偏ったままだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。